

Title	藤林敬三博士年譜
Sub Title	A chronology of the late Dr. Keizo Fujibayashi
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1963
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.56, No.6/7 (1963. 7) ,p.469(1)- 470(2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	藤林敬三博士追悼特集
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19630701-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19630701-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 藤林敬三博士年譜

- 明治三十三年一月八日 父昌吉、母ことの三男として大阪市南区八幡筋に生まれる
- 大正 二年 三月 大阪市北区川崎第二小学校（現在、済美第四小学校）卒業、後しばらく方向定まらず
- 五年 四月 島根県立松江中学に入学
- 七年 四月 大阪府立今宮中学に転学し、同九年四月五学年に進級
- 九年 九月 慶応義塾大学経済学部予科一年に入学
- 一五年 三月 同経済学部卒業
- 一五年 四月 同経済学部助手
- 昭和 四年 十一月 義塾留学生として海外に出張
- 七年 二月 帰国、この間主として独仏に学ぶ
- 七年 四月 慶応義塾大学経済学部助教に任ぜられ、「経済心理学」を講義する
- 九年 四月 同教授となる
- 一二年 一月 軍召集を受け、看護兵として中支各地の病院勤務に従事し、同二四年八月召集解除となる
- 一八年 一〇月 厚生省勤労局参与。同年から戦後へかけ三年間立教大学講師として「社会政策」を講義する
- 二〇年 一〇月 経済学博士の学位を受く、主論文「労働者政策と労働科学」、副論文「わが国における労働移動の歴史的考察」
- 二一年 三月 労務法制審議会委員、労働組合法、労働関係調整法、労働基準法の原案審議に参画する
- 二二年 一〇月 神奈川地方労働委員会委員
- 二四年 一〇月 中央労働委員会委員
- 二四年 八月 失業対策審議会会長
- 二四年 八月 国民金融審議会委員
- 二四年 八月 国鉄中央調停委員会委員長

藤林敬三博士年譜

- 二五年 五月 社会保障制度審議会委員
  - 二五年 九月 中央貸金審議会委員
  - 二五年 中央職業安定審議会会長
  - 二六年 二月 慶応義塾大学経済学部長(同二八年九月末日まで)
  - 三一年 公共企業体等労働委員会会長
  - 三三年 経済審議会委員
  - 三三年 六月 ILO第四二回総会に政府代表として出席のため、スイス国ジュネーヴに出張
  - 三四年 九月 慶応義塾大学産業研究所所長
  - 三五年 三月 中央労働委員会会長
  - 三七年五月二九日 慶応義塾大学付属病院特別病棟に入院
  - 三七年九月一日 午後十時一分脳血栓に肺炎を併発死去
  - 一八日 鎌倉市旭ヶ丘の自宅にて内葬
  - 二二日 青山斎場にて、慶応義塾大学産業研究所、中央労働委員会合同葬儀
- 右のほか、戦後、

- (1) 財団法人中央労働学園理事として同学園専門学校の創設を企画し、後数年間、労働経済学を講義する
- (2) 明治学院専門学校講師として一年間「社会政策」を講義する
- (3) 早稲田大学第一政治経済学部の講師として三年間「労働問題」を講義する
- (4) 産業合理化審議会、東京地方労働基準委員会、臨時労働法制審議会、臨時公労法審議会、中央労働基準審議会、国鉄経営調査会、専売制度調査会、身体傷害者雇用審議会委員のほか、財団法人日本労政協会の代表理事であった
- (5) 昭和三七年当時の役職および関係学会
  - (a) 人口問題審議会、労働問題懇談会、専売事業審議会、国民金融審議会、社会保障制度審議会、国鉄諮問委員会、経済審議会の各委員、中央労働委員会会長、市町村職員共済組合審査委員会、非現業共済組合審査委員会
  - (b) 財団法人労務行政研究所理事、同官業労働研究所理事、同人口問題研究所理事、同評議員、日本労働協会評議員
  - (c) 社会政策学会幹事、社会学会、経済政策学会、国際経済学会、経営学会、労働法学会等会員

## 藤林敬三博士の逝去を悼む

小池基之

慶応義塾大学教授藤林敬三博士が逝去されたのは昭和三七年九月一日のことであった。すでにその前年の一二月頃から左足に異常を感じられていたとのことであったが、それを押して、学内外の激務を執られているうち、翌三七年五月末にいたって病状が悪化し、慶応義塾大学病院に入院、加療につとめられた。その年の夏はことのほか暑さが酷しかった。そのなかにあって、生来剛毅な博士は、病勢の進行に対しても、つとめて見舞客の心を煩わさないように、気を配っておられたかに思われる。そして、時には快方に向われる望みを託しうると思われたこともあったのであるが、九月に入って余病を併発し、その月の一日、ついに不帰の客となられたのであった。まことに、慶応義塾大学経済学部にとってのみならず、広く学界にとって、その失うところ極めて大であったといわねばならない。

博士は明治三三年一月八日大阪市に生まれ、島根県立松江中学および大阪府立今宮中学を経て、大正九年慶応義塾大学経済学部に進学、大正一五年経済学部を卒業、直ちに同学部助手となり、昭和四年より昭和七年にかけて海外留学、昭和七年慶応義塾大学経済学部助教授、昭和九年教授に任ぜられた。そして、昭和二〇年、主論文「労働者政策と労働科学」、副論文「わが国における労働移動の歴史的考察」によって、経済学博士の学位を授与された。

博士が慶応義塾大学経済学部助手として研究生生活に入られたのは、大正九年(一九二〇年)の恐慌につづく一時的相対的安定期のあとをうけて、昭和二年(一九二七年)の金融恐慌、そして昭和四年(一九二九年)にはじまる世界恐慌が全資本

藤林敬三博士の逝去を悼む